

日本国特許庁
JAPAN PATENT OFFICE

別紙添付の書類に記載されている事項は下記の出願書類に記載されている事項と同一であることを証明する。

This is to certify that the annexed is a true copy of the following application as filed with this Office.

出願年月日 2003年 6月30日
Date of Application:

出願番号 特願2003-187780
Application Number:
[ST. 10/C]: [JP2003-187780]

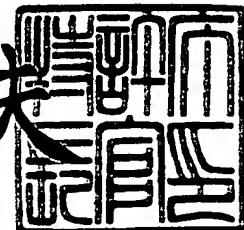
出願人 太田 育實
Applicant(s):

CERTIFIED COPY OF
PRIORITY DOCUMENT

2003年 8月 1日

特許庁長官
Commissioner,
Japan Patent Office

今井 康夫



BEST AVAILABLE COPY

出証番号 出証特2003-3061972

【書類名】 特許願

【整理番号】 P1506056

【あて先】 特許庁長官殿

【国際特許分類】 E03C 1/23

【発明者】

【住所又は居所】 三重県三重郡朝日町大字小向 1918番地 株式会社日
本アルファ内

【氏名】 太田 育實

【発明者】

【住所又は居所】 三重県三重郡朝日町大字小向 1918番地 株式会社日
本アルファ内

【氏名】 石垣 征樹

【発明者】

【住所又は居所】 三重県三重郡朝日町大字小向 1918番地 株式会社日
本アルファ内

【氏名】 太田 慎一

【特許出願人】

【識別番号】 000203737

【氏名又は名称】 太田 育實

【代理人】

【識別番号】 100109955

【弁理士】

【氏名又は名称】 細井 貞行

【選任した代理人】

【識別番号】 100090619

【弁理士】

【氏名又は名称】 長南 満輝男

【選任した代理人】

【識別番号】 100111785

【弁理士】

【氏名又は名称】 石渡 英房

【先の出願に基づく優先権主張】

【出願番号】 特願2002-222968

【出願日】 平成14年 7月31日

【手数料の表示】

【予納台帳番号】 145725

【納付金額】 21,000円

【提出物件の目録】

【物件名】 明細書 1

【物件名】 図面 1

【物件名】 要約書 1

【包括委任状番号】 9904041

【プルーフの要否】 要

【書類名】 明細書

【発明の名称】 浴槽用排水栓構造

【特許請求の範囲】

【請求項 1】 遠隔操作式の排水栓装置を用いた浴槽用の排水栓構造であって、排水口閉口状態において、少なくとも栓蓋周囲縁を浴槽底面よりも低くさせてあることを特徴とする浴槽用排水栓構造。

【請求項 2】 遠隔操作式の排水栓装置を用いた浴槽用の排水栓構造であって、排水口が、栓蓋周囲縁が排水口閉口状態において浴槽底面よりも低くなるように落とし込まれる凹部と、その凹部底面よりも下方に有って栓蓋径よりも小径とするパッキン密着面とからなり、

前記凹部に栓蓋を落とし込んだ状態でパッキンが前記パッキン密着面に密着するようにしていることを特徴とする浴槽用排水栓構造。

【請求項 3】 密着面が凹部底面から下方に向けて先窄み状の傾斜面であることを特徴とする請求項 2 に記載の浴槽用排水栓構造。

【請求項 4】 前記凹部が栓蓋を載承する水平面を底面とすることを特徴とする請求項 3 記載の浴槽用排水栓構造。

【請求項 5】 パッキンが基部から先細り状の本体を一体に連設するとともに、該本体にパッキン密着面に密着する環状凸条を 1 または 2 以上複数条突設して形成されていることを特徴とする請求項 4 に記載の浴槽用排水栓構造。

【請求項 6】 本体を、端部上縁から底部にかけての外面を凸状湾曲面とする先細り状とし、当該凸状湾曲面に環状凸条を突設形成していることを特徴とする請求項 4 記載の浴槽用排水栓構造。

【請求項 7】 凹部は、栓蓋をその頂部が浴槽底面と面一、または、それ以下となるように落としめる深さであることを特徴とする請求項 4 に記載の浴槽用排水栓構造。

【請求項 8】 栓蓋を、排水栓装置の支軸に対して着脱可能に取着していることを特徴とする請求項 1 または 7 記載の浴槽用排水栓構造。

【請求項 9】 栓蓋と当該栓蓋を支持する排水栓装置の支軸との係脱構造が、栓蓋に設けられた嵌合筒体に軸方向のスリットを設けて周方向数箇所に形成した弾

性片の内側に凸部を突設する一方、支軸に凸部が適合状に嵌合する嵌合溝を設けて、

支軸を嵌合筒体に挿し込む行為により、支軸が前記凸部に接触して弾性片を拡開するとともに、凸部が嵌合溝に位置したときに弾性片が弾性により拡開状態から復帰することで凸部が嵌合溝に嵌合して、通常の使用状態では栓蓋が支軸から外れないように連結され、

栓蓋を支軸から引き抜く行為により、弾性片が拡開して凸部を嵌合溝から脱出させて栓蓋を取り外す構造であることを特徴とする請求項1または7記載の浴槽用排水栓構造。

【請求項10】栓蓋に、支軸を上下動可能に支持する支持体の外周面に外周面を摺接する振れ防止体を垂設していることを特徴とする請求項9記載の浴槽用排水栓構造。

【請求項11】栓蓋に、支軸を上下動可能に支持する支持体の外周面を摺接する異物混入防止用カバーを設け、該異物混入防止用カバーは、下方を開放した筒状部を有し、該筒状部は、排水口開閉時共に支持体の外周面に添う長さを有することを特徴とする請求項9記載の浴槽用排水栓構造。

【発明の詳細な説明】

【0001】

【発明の属する技術分野】

本発明は、浴槽の排水口を開閉する排水栓構造に関する。

【0002】

【従来技術】

従来、浴槽用の排水栓構造は、例えば、栓蓋を軸支した支持体が排水口内に保持され、その支持体と離間した位置に配設された操作部がレリースワイヤを介して支持体と連結してなる遠隔操作式の排水栓装置を用いたものが知られている（例えば、特許文献1。）

【0003】

【特許文献1】

特開平9-60073公報（第3頁、図2）

【0004】

ところで、このような排水栓構造においては、図5に示すように、栓蓋100の裏面101に設けられたパッキン102が排水口Cのパッキン密着面103に密着することによって水密を保持するものであることから、栓蓋100が浴槽底面104から大きく突出しており、入浴時における障害物となる可能性がある。

そこで、図示するように、パッキン密着面103を排水口Cの上面から一段下げて少しでも栓蓋100の高さを低くしようとしているものの、排水口を構成し支持体を保持する排水金具の肉厚や排水口径の確保等の理由により、現実的にはパッキン102の厚み未満の高さ分下げられる程度であり、実効性としてはきわめて低いものである。

しかも、水密性の確保が最優先となるため、パッキン102がパッキン密着面103に密着した状態において、栓蓋裏面101と排水口Cの上面との間に隙間が生じるようになり、この隙間で水密性を保持するために必要なパッキン102の潰れ量を確保するようにすると、逆にこの隙間が栓蓋100の突出量を増やしてしまう要因となる上に、この隙間により栓蓋100がどうしても段差になってしまふ。

【0005】

【発明が解決しようとする課題】

そこで、本発明は、浴槽底からの栓蓋の突出を抑制して、栓蓋が障害物となる可能性を低くすることを課題とし、その課題を解決した排水栓構造の提供を目的とする。

さらに本発明は、前記課題に加えて水密性の向上を課題とし、その課題を解決した排水栓構造の提供を目的とする。

【0006】

【課題を解決するための手段】

上記した目的を達成するために本発明は下記の技術的手段を採用した。

その技術的手段は、遠隔操作式の排水栓装置を用いた浴槽用の排水栓構造であって、排水口閉口状態において、少なくとも栓蓋周囲縁を浴槽底面よりも低くさせてあることを特徴とする浴槽用排水栓構造にしたことである（請求項1）。

これによって、栓蓋の少なくとも周囲縁は肌に接触不能に排水口に落とし込まれるし、落とし込み量によっては、栓蓋頂点を浴槽底面と面一またはそれ以下に位置させることが可能となる。その場合には、障害物にならず、安全且つ快適な入浴を約束する。

【0007】

【発明の実施の形態】

請求項1の具体的な構造として、例えば、遠隔操作式の排水栓装置を用いた浴槽用の排水栓構造であって、排水口が、栓蓋周囲縁が排水口閉口状態において浴槽底面よりも低くなるように落とし込まれる凹部と、その凹部底面よりも下方に有って栓蓋径よりも小径とするパッキン密着面とからなり、前記凹部に栓蓋を落とし込んだ状態でパッキンが前記パッキン密着面に密着するようにしていることを特徴とする浴槽用排水栓構造が挙げられる（請求項2）。

請求項2によれば、栓蓋が、栓蓋周囲縁が浴槽底面よりも低くなるように凹設された凹部に落とし込まれ、パッキンはその凹部底面よりも下位のパッキン密着面に密着する。

そのため、栓蓋は凹部に落とし込まれながら、水密性を保持するために必要なパッキンの潰れ量は栓蓋の凹部への落とし込みの弊害にならない。

【0008】

前記パッキン密着面は、前記した作用を有する構成のすべてを包含するが、好適には、凹部底面から下方に向けて先窄み状の傾斜面とする構成である（請求項3）。

請求項3では、パッキンが傾斜面によってつぶれ変形しながらパッキン密着面に密着するため、パッキンに作用するパッキン密着面への押し付け力にパッキン自身の変形からの復帰力が加わって密着力が増強される。

【0009】

また、前記凹部は栓蓋を載承する水平面を底面とするのが最良である（請求項4）。

請求項4では、加重（水圧や使用者による人為的な圧力）で栓蓋が傾くことなく水平面に支承されて、パッキンに必要以上の潰し力を作用させない。

【0010】

密着性については、パッキンを、基部から先細り状の本体を一体に連設とともに、該本体にパッキン密着面に密着する環状凸条を1条または2条以上複数条突設して形成し(請求項5)、環状凸条がパッキン密着面に線接触状に密着する構成とすることによって、より高い密着性を実現する上で効果的である。

この場合、本体を、端部上縁から底部にかけて外面を凸状湾曲面とする先細り状とし、当該凸状湾曲面に環状凸条を突設形成する(請求項6)ことが好ましい。

【0011】

そして、凹部を、栓蓋をその頂部が浴槽底面と面一、または、それ以下となるように落とし込める深さとする(請求項7)ことによって、浴槽底部において栓蓋が突出することなく装着される。

しかも、栓蓋を、排水栓装置の支軸に対して着脱可能に取着する(請求項8)ことによって、栓蓋をワンタッチで外すことが可能となって補修管理上好都合である

【0012】

栓蓋と当該栓蓋を支持する排水栓装置の支軸との係脱構造の具体例としては、栓蓋に設けられた嵌合筒体に軸方向のスリットを設けて周方向数箇所に形成した弹性片の内側に凸部を突設する一方、支軸に凸部が適合状に嵌合する嵌合溝を設けて、支軸を嵌合筒体に挿し込む行為により、支軸が前記凸部に接触して弹性片を拡開するとともに、凸部が嵌合溝に位置したときに弹性片が弹性により拡開状態から復帰することで凸部が嵌合溝に嵌合して、通常の使用状態では栓蓋が支軸から外れないように連結され、栓蓋を支軸から引き抜く行為により、弹性片が拡開して凸部を嵌合溝から脱出させて栓蓋を取り外す構造(請求項9)が挙げられる。

【0013】

また、栓蓋に、支軸を上下動可能に支持する支持体の外周面を摺接する振れ防止体を垂設しておくと、栓蓋の振れ、傾きを防止し(請求項10)、更に、栓蓋に、支軸を上下動可能に支持する支持体の外周面を摺接する異物混入防止用カバ

ーを設け、該異物混入防止用カバーは、下方を開放した筒状部を有し、該筒状部は、排水口開閉時共に支持体の外周面に添う長さを有すると、排水口開口時においても支持体内に異物が進入するのを防止する（請求項11）。

【0014】

【実施例】

以下、本発明の実施例を図面に基づいて説明する。

尚、本発明に用いられる排水栓装置は、基本的には公知の構造であるので操作部の図示及び説明は省略する。

ちなみに、排水栓装置は、栓蓋1を備えて排水口Bに配設された支持体2と、例えば浴槽Aの上縁（図示せず）に配設された操作部（図示せず）とを、浴槽Aの裏側からレリースワイヤ3で連結した構成のものであり、操作部の操作レリースワイヤ3を介して支持体2に伝達し、支持体2又は操作部（図示せず）に内蔵してあるスラストロック機構（図示せず）を作動させて、支持体2に上下動可能に設けられている支軸21を上下動させて、その支軸21に支持されている栓蓋1を開閉動させて、排水口Bを開閉する周知の態様のものである。

支持体2は、排水口Bを構成する排水金具A1内にある保持手段A3により排水金具A1内に抜差し可能に保持されているが、支持体2の保持に関しては、例示する構造に限定するものではない。

保持手段A3の構成については、本出願人が特願平9-279925号で既に提案済みであるので具体的な説明を省略する。

ちなみに、保持手段A3は、支持体2の外側に、支持体2の外周面から放射状に設けたリブA31を介して、排水金具A1に着脱可能に取り付けられる保持リングA32を一体に設けるとともに、保持リングA32と排水金具A1とに亘つて嵌合手段A33を設けて、支持体2を排水金具内A1に抜き差し可能に保持するようにしたものである。

【0015】

次に、本発明の排水栓構造を具体的に説明する。

排水口Bは、上面に栓蓋1の周囲縁11が埋没する深さの凹部4と、凹部4底である水平面41から下方に向けて先窄まり状の傾斜面とするパッキン密着面5

とから構成してある。

凹部4底である水平面41とパッキン密着面5は、浴槽底面A2よりも下位に位置しており、これによって、栓蓋の開閉状態において、栓蓋1の周囲縁11及び後記するパッキン6が浴槽底面A2よりも下位に位置するようにしている。

栓蓋1の下方には前記パッキン密着面5に密着して水密を保持する前記パッキン6を配設してある。

【0016】

パッキン6は、栓蓋1の裏面12から離間させて配設され、これによる隙間がパッキン6の変形空間となっていて、栓蓋1が閉じられた状態において、パッキン密着面5の傾斜によって上方にめくり上げられるように変形し、その変形からの復帰力も密着力として作用する。

パッキン6は、本体61を基部から先細り状とともに、端部上縁から底部にかけての外面を凸状湾曲面としてある。

また、パッキン6の裏面には、パッキン6と同芯とする環状凸条62が2本突設されており、この環状凸条62がパッキン密着面5に線接触状に密着することで水密を保持している。

【0017】

栓蓋1と支持体2の支軸21の連結構造は、栓蓋1の裏面12に一体に突設した嵌合筒体7が支軸21に着脱可能に嵌合される。

具体的には、嵌合筒体7に軸方向のスリット71を多数設けて周方向数箇所に弾性片8が形成され、その弾性片8の先端内側に凸部81を突設する一方、支軸21に凸部81が適合状に嵌合する嵌合溝9を設けて構成してある。

【0018】

このようにした連結構造では、栓蓋1を支軸21に取付ける場合には、嵌合筒体7を支軸21の先端に押し付けそのまま押し込むと、支軸21が前記凸部81に接触して弾性片8を拡開するとともに、凸部81が嵌合溝9に位置したときに弾性片8が弾性により拡開状態から復帰することで凸部81が嵌合溝9に嵌合して、栓蓋1が取り付けられる。

栓蓋1が取り付けられた状態では、支軸21の先端が嵌合筒体7に差し込まれ

ているとともに、弾性片8の凸部81が嵌合溝9に嵌合しており、栓蓋1の通常の開閉動作では弾性片8の弾性力によって連結状態が保持される。

栓蓋1を取り外す場合には、栓蓋1を支軸21から引き抜くと、凸部81に嵌合溝9から脱出する力が作用して弾性片8が拡開して凸部81を嵌合溝9から脱出させることによって栓蓋1が取り外される。

つまり、栓蓋1の閉状態では、支軸21に作用するスラストロック機構の引っ張り力をパッキン6のパッキン密着面5に対する押し付け力として作用させることができるとともに、栓蓋1を支軸21から引き抜けば修理やメンテナンスを容易に行うことができるようになっている。

【0019】

栓蓋1の裏面には、支持体2の外周面に摺動する振れ防止体13を垂設してある。

振れ防止体13は、支持体2に嵌合して摺動する内径の筒状部131を有し、その筒状部131の下端には、支軸21の上下動時において前記リブA31を避けるための、軸方向の切込み14が、リブA31の枚数分形成してある。（図4参照）

このようにした振れ防止体13は、支軸21による栓蓋1の上下動に伴って、支持体2に案内されるように上下動する。

その筒状部131の長さを栓蓋1が支軸21で上昇された状態（排水口開口状態）であっても、支持体2の外周面に添う長さに設定することによって、支軸21の振れや傾きを防止している。

また、この振れ防止体13は、排水に混入する異物が支持体2に開孔されている支軸ガイド孔（図示せず）から支持体2内に入り込むのを防止する異物混入防止用カバー23としても機能する。

【0020】

尚、前記では、振れ防止体13が異物混入防止用カバー23を兼務する旨で説明しているが、振れ防止のみを達成するためには栓蓋1から支持体2の外周面に沿うガイド脚（図示せず）を周方向に間隔をおいて垂設し、その複数のガイド脚で振れ防止体を構成すること自由なものである。

【0021】

前記した実施例では、栓蓋の周囲縁が凹部に埋没した形態で例示したが、この形態以外にも、凹部の深さを栓蓋の頂点が浴槽底面と面一となる深さとして、栓蓋全体を凹部に埋没させる形態（図示せず）や、図3に示すように、栓蓋1の高さを低くするとともに、栓蓋1の上面をフラット、または、緩やかな円弧（図示せず）にして、栓蓋1全体を埋没させることによって、浴槽底面A2をフラットまたは略フラットとする形態も挙げられる。

なお、図3の構造は、栓蓋以外は図1に示す構造と同様であるため、同一符号を付して説明は省略する。

【0022】

【発明の効果】

本発明は以上説明したとおり、下記の優れた効果を有する。

請求項1の発明では、栓蓋を排水口閉口状態において排水口に落とし込む構成にしているから、栓蓋の周囲縁が露呈してその周囲縁に手指が引っ掛けたり、栓蓋の落とし込み量によって栓蓋を浴槽底面から突出させないようにすることも可能であり、障害物による違和感のない快適な入浴を楽しめる。

【0023】

また、請求項2の発明では、さらに、パッキン自身の変形からの復帰力が、パッキンに作用するパッキン密着面への押し付け力に加わる。

したがって、パッキンのパッキン密着面への密着力が増強され、優れた止水性が発揮される。

その上、栓蓋周囲縁が浴槽底面よりも低くなるように凹設された凹部に落とし込まれ、パッキンはその凹部底面よりも下位のパッキン密着面に密着することによって、栓蓋にかかる加重（水圧や使用者による人為的な圧力）を、栓蓋とパッキンとで分散して受けることができる。

したがって、栓蓋やパッキンの一方に負荷を集中することが回避できるので、栓蓋及びパッキンの耐久性向上に大きく貢献する。

【0024】

しかも、請求項3では、パッキンが傾斜面によってつぶれ変形しながらパッキ

ン密着面に密着するため、パッキンに作用するパッキン密着面への押し付け力にパッキン自身の変形からの復帰力が加わって密着力が増強され、より確実な止水を実現できる。

【0025】

その上、請求項4では、加重（水圧や使用者による人為的な圧力）で栓蓋が水平面に支承されて、パッキンに必要以上の潰し力を作用させないので、栓蓋が傾いて排水口を閉口することもなければ、パッキンに無理が負荷を掛けることも無くなり、止水を確実にすると共に、パッキンの耐久性を阻害する虞れもない。

【0026】

さらに、請求項5および請求項6では、パッキンの環状凸条がパッキン密着面に対して線接触状に密着させてるので、さらなる水密性の向上に極めて大きく貢献する。

【0027】

そして、請求項7では、凹部が栓蓋をその頂部が浴槽底面と面一、または、それ以下となるように落とし込める深さであるので、栓蓋を浴槽底部において突出させることなく装着することができる。

【0028】

また、請求項8および請求項9では、支軸の引っ張り力をパッキンのパッキン密着面に対する押し付け力として作用させることができるので、より優れた止水性を達成できるし、栓蓋を支軸から人為的に引き抜けば修理やメンテナンスを容易に行うこともできる。

【0029】

また、請求項10にあっては、栓蓋に、支軸を上下動可能に支持する支持体の外周面を摺接する振れ防止体を垂設しているので、栓蓋の振れや傾きを防止して開閉を確実に案内して、振れや傾きで栓蓋が斜めに排水口を閉口して、止水が不完全になったりすることなく、所定の止水性を耐用期まで安定的に持続する。更に、請求項11にあっては、栓蓋に、支軸を上下動可能に支持する支持体の外周面を摺接する異物混入防止用カバーを設け、該異物混入防止用カバーは、下方を開放した筒状部を有し、該筒状部は、排水口開閉時共に支持体の外周面に添う

長さを有するので、排水に混入する異物が支持体内に進入することが無くなり、故障や作動不良を起こす虞れもない（請求項 1 1）。

【図面の簡単な説明】

【図 1】本発明にかかる排水栓構造の断面図。

【図 2】排水口開口状態の断面図。

【図 3】栓蓋の断面図。

【図 4】他の実施例を示す断面図。

【図 5】従来の排水栓構造の断面図。

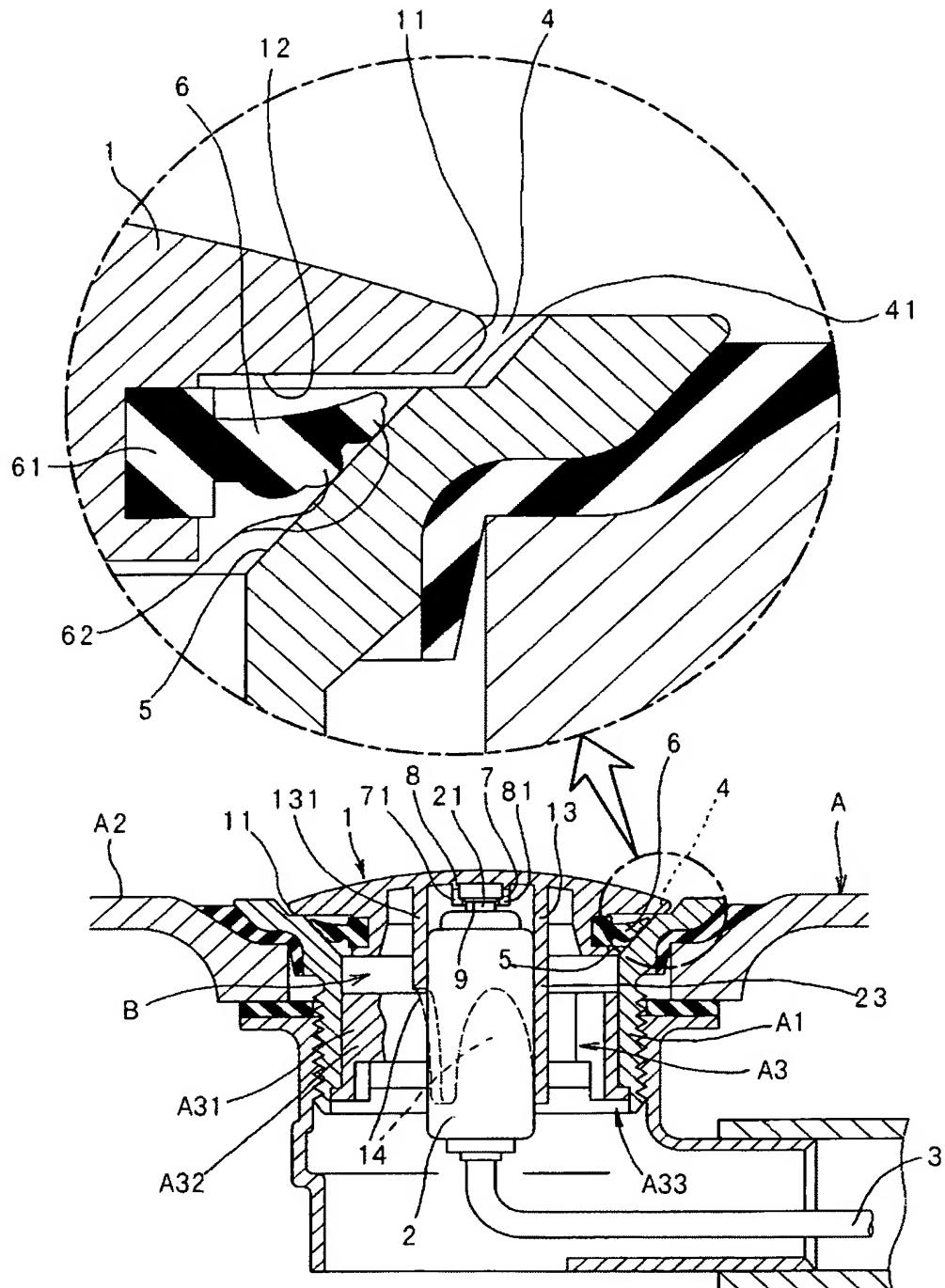
【符号の説明】

A : 浴槽	A 2 : 浴槽底面
B : 排水口	1 : 栓蓋
1 1 : 周囲縁	1 3 : 振れ防止体
2 : 支持体	2 1 : 支軸
4 : 凹部	5 : パッキン密着面
6 : パッキン	6 2 : 環状凸条
7 : 嵌合筒体	7 1 : スリット
8 : 弹性片	8 1 : 凸部
9 : 嵌合溝	1 3 1 : 筒状部
2 3 : 異物混入防止用カバー	4 1 : 水平面（凹部底面）

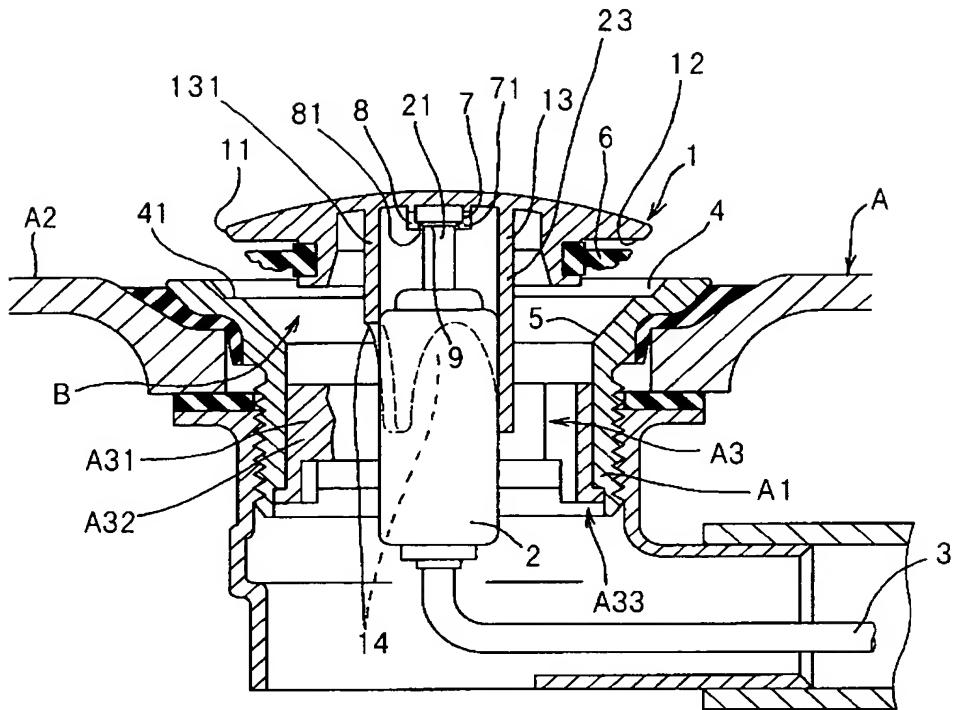
【書類名】

図面

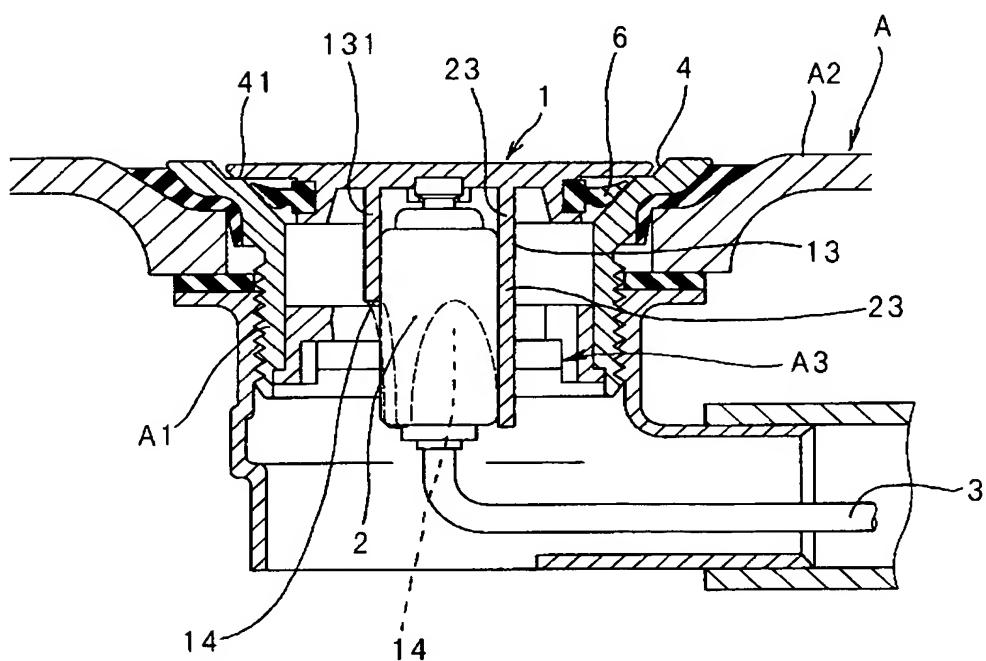
【図 1】



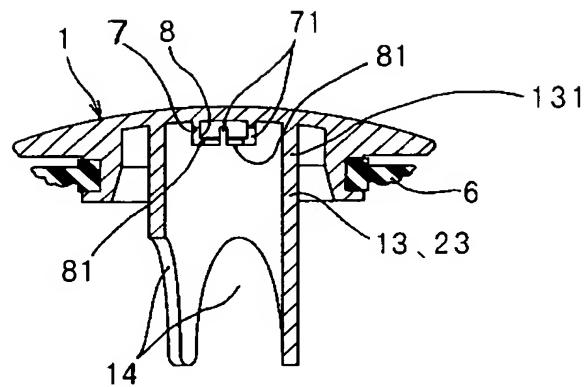
【図2】



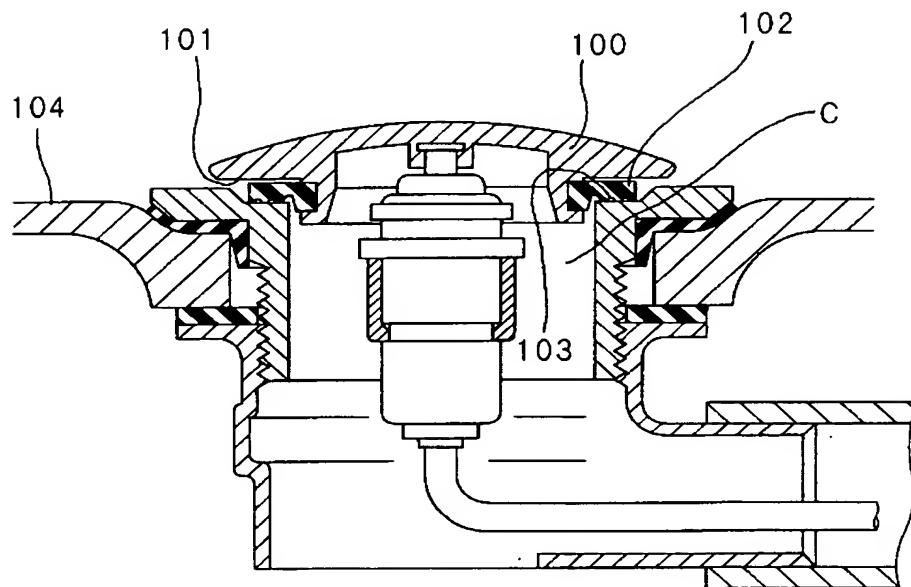
【図3】



【図4】



【図5】



【書類名】 要約書

【要約】

【課題】 浴槽底からの栓蓋の突出を抑制して、栓蓋が障害物となる可能性を低くすると共に、水密性の向上を図る。

【解決手段】 栓蓋1を、栓蓋1周囲縁が浴槽底面A2よりも低くなるよう凹設された凹部4に落とし込む。パッキン6を、凹部4底面から下方に向けて先窄み状のパッチン密着面5に密接させる。凹部4底を水平面41にして加重（水圧や使用者による人為的な圧力）で栓蓋1が傾くことなく支承して、パッキン6に必要以上の潰し力を作用させない。栓蓋1に、支軸21を上下動可能に支持する支持体2の外周面を摺接する振れ防止体13を垂設して栓蓋1の振れを防止し、また排水口開閉時共に支持体2の外周面に沿う長さの異物混入防止用カバー23が、排水に混入する異物が支持体1内に進入することを防止する。

【選択図】 図1

認定・付加情報

特許出願の番号	特願2003-187780
受付番号	50301090790
書類名	特許願
担当官	第二担当上席 0091
作成日	平成15年 7月 3日

<認定情報・付加情報>

【提出日】	平成15年 6月30日
-------	-------------

特願2003-187780

出願人履歴情報

識別番号 [000203737]

1. 変更年月日 1990年 8月10日
[変更理由] 新規登録
住所 三重県三重郡朝日町大字繩生2800番地の31
氏名 太田 育實